様式第４号（教員個人に関する書類）

教育研究業績書

令和５年５月１日

氏名　　市　川　祥　子　　印

教育上の能力に関する事項		
事項	年　月	概要
１　教育方法の実践例 1 教育方法の実践例 1-1.　　フィールドワーク		学生自らが実際に現地に赴いて店舗実態調査や地域調査を実施。レポートをまとめ、ゼミでディスカッションするという取り組みを実践。社会と人との関係を実感できる取り組みとしてゼミなどで取り入れている。また、コロナ禍においては、雑誌やインターネットなどを利用して学生自身に実社会における様々なデータを収集させ、それらについて様々な角度からディスカッションさせる取り組みを行った。
1-2.　　ロールプレーイングやディスカッション・ディベートなど授業内での体験学習の工夫		演習授業や少人数の授業において、社会におけるリアルな現場を想定し、問題点や解決方法などについてディスカッションやディベートをさせる授業を実施。他者に対し効果的に意見を述べるなど、コミュニケーションスキルを向上させるための工夫として取り入れた。学生が楽しみながら、積極的に授業に参加できることから、学生の評価も高い。ディスカッションやディベートに関しては、講義形式の授業でも、状況に応じて取り入れるようにしている。
1-3.　　マルチ・メディアを利用した授業		学生がより集中し楽しんで聴講できるよう、授業内容に関連した DVD や映像などを適宜利用。使用する DVD などは、インターネットや TV などから入手したものを、講義の内容に合わせて自ら編集し使用。視覚から得られる情報によって、学生の興味関心を喚起したり、理解度を深めたりする手段として効果が上がっている。学生からも評価が高い。
1-4.　　コミュニケーションカードの活用		全ての授業に関して、毎回、授業に関連するテーマを用意し、自分の考えや感想・質問を提出させることにしている。学生からの質問や他の学生と共有した内容に関しては、次回授業で必ずフィードバックを行っている。学生とのコミュニケーションを大切にし、一方通行の授業にならないための工夫の１つ。オンライン授業ではチャット機能を積極的に使用して、インタラクティブな授業を心掛けた。
1-5.　　学生のレベルに合わせたオリジナル教材の作成		基本的に授業では教科書を使用せず、パワーポイントの資料とレジュメを作成。 受講学生の所属学部や学年、資格取得に必要な要件などに合わせて、オリジナル教材を作成し授業でテキストとして使用。特に、資格取得に関わるものに関しては、自宅学習

様式第４号（教員個人に関する書類）

		なども積極的にできるよう、ポイントをわかりやすくまとめ、授業中には、それらのテキストに積極的にメモを取るよう指示し、授業への積極的参加を促すように働きかけている。これらのテキストは毎年、少しずつ改良を重ねている。学生からの満足度が高く、理解度も向上し、授業に集中できるなど高い評価を得ている。
1-6.　　新聞・雑誌の記事などの利用		授業内容と実社会とを結びつけてイメージできるよう、必要に応じて新聞や雑誌・インターネットの記事などを用い、学生の関心を喚起するよう工夫を行っている。
２　作成した教科書・教材 2 作成した教科書、教材 2-1.「心理学・心理学演習」	2004年４月～2006年３月	A4・35 項の教材を授業用に作成。兵庫中央病院附属看護学校「心理学・心理学演習」(専門科目、1 年次配当、通年、必修計 4 単位)で使用。
2-2.「心理学概論Ｉ」	2008年４月～2010年８月	A4・46 項の教材を授業用に作成。帝塚山大学心理福祉学部「心理学概論Ｉ」(専門科目、1 年次～4 年次配当、半期、必修 2 単位)で使用。
2-3.「社会心理学」「社会心理学概論」	2008年９月～	A4・31 項の教材を授業用に作成。佛教大学社会学部「社会心理学」(専門科目、2 年次～4 年次配当、半期、2 単位)、甲子園大学心理学部「社会心理学概論」（専門科目 1 年次配当、半期、2 単位）で使用。
2-4.「教育心理学」	2011年４月～	A4・33 項の教材を授業用に作成。佛教大学教育学部「教育心理学」(専門科目、2 年次～4 年次、半期、必修 2 単位)で使用。
2-5.「人間関係論」	2018 年 4 月～	A4・32 項の教材を授業用に作成。甲子園大学心理学部「人間関係論」(専門科目、2 年次～4 年次配当、半期、2 単位)で使用。
2-6.「集団心理学」	2018 年 4 月～	A4・30 項の教材を授業用に作成。甲子園大学心理学部「集団心理学」(専門科目、2 年次～4 年次配当、半期、2 単位)で使用。
2-7.「消費行動の心理学」	2018年４月～	A4・30 項の教材を授業用に作成。甲子園大学心理学部「消費行動の心理学」(専門科目、2 年次～4 年次配当、半期、2 単位)で使用。
2-8. 新しい教職課程講座教職教育編４　教育心理学 第 11 章　教師と児童・生徒のコミュニケーション	2019年３月～	佛教大学教育学部、通信教育学部指定教科書。「第 11 章教師と児童・生徒のコミュニケーション」を執筆。原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹（監修）「新しい教職課程講座」全 23 巻における橋本憲尚・神藤貴昭（編著）『教職教育編第 4 巻　教育心理学』新学習指導要領に対応した

		テキストシリーズの教職教育編。2020 年第 3 版発行。A5 判、総項数 222、担当部分 pp.198～pp.215.(18 項)
2-9.「マネジメント特殊講義」	2021 年 4 月～	A4・30 項の教材を授業用に作成。大阪公立大学（大阪府立大学・大阪市立大学）マネジメント学部「マネジメント特殊講義」(専門科目、3 年次～4 年次配当、半期、2 単位)で使用。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
4-1. 企業からの講師招聘におけるプロジェクトへの参加	2002 年 4 月～2004 年 3 月	神戸大学国際文化学部において、東洋ゴム工業株式会社取締役会長／片山松造氏、元ドイツ TOYOTA 社長・元スウォッチグループ・ジャパン社長／宮地俊雄氏、特定非営利活動法人「アムダ」海外事業本部長／鈴木俊介氏、元ジャトコ株式会社専務取締役／坂本研一氏、元東洋ゴム工業株式会社常務取締役・技術開発統括本部長／橋田泰三氏ら、10 人の企業人を講師として招聘するプロジェクトに参加。国際化や異文化接触、コミュニケーションという内容にふれながら、大学生活と現実の社会との接点をこの講義によって見出していくというコンセプトのもと、企業人による講義をコーディネート。2 年にわたって、神戸大学国際文化学部において開講された。これらの講義は、『神戸大学国際文化学部講義録・自動車関連産業からの国際文化と異文化交流』として出版された。本プロジェクトは指導教官であった瀧上凱令教授の元で実施された。 発行：株式会社ユニウス 2004 年 4 月 10 日　第 1 刷発行
4-2. 認定心理士・公認心理士資格科目の担当	2004 年 4 月～	甲子園大学、兵庫中央病院附属看護大学、帝塚山大学、佛教大学にて認定心理士・公認心理士資格科目を担当。「心理学概論」「心理学演習」「心理学実験実習」「社会心理学」「教育心理学」。
4-3. 衣料管理士課程科目の担当	2012 年 4 月～2014 年 9 月	神戸松蔭女子学院大学「生活科学Ⅰ（衣）」消費者行動、ファッションビジネス、マーケティングについて講義。
4-4. 講演：『NIKKE SCHOOL EXPO 2018 ウールで紡ぐ子どもたちの未来』における大阪講演	2018 年 6 月 14 日	『NIKKE SCHOOL EXPO 2018 ウールで紡ぐ子どもたちの未来』における講演「被服と心理学―装いを科学する―」（於 大阪綿業会館）
4-5. 講演：『NIKKE SCHOOL EXPO 2018 ウ	2018 年 6 月 29 日	『NIKKE SCHOOL EXPO 2018 ウールで紡ぐ子どもたちの未来』における講演「被服と心理学―装いを科学する

様式第４号（教員個人に関する書類）

ールで紡ぐ子どもたちの未来』における東京講演		―」（於 東京時事通信ホール）
4-6. FM 宝塚ラジオ 10 分間講座	2018 年 8 月 17 日	ＦＭ宝塚ラジオ「10 分間講座　栄養と心の目」において『被服と心理学』について講義した。
4-7. ニッケグループ・日本毛織株式会社からの委託研究	2018 年 9 月～	学校制服の効用を心理学的視点から研究することを目的としてニッケグループ・日本毛織株式会社より委託。日本毛織株式会社顧問に就任。
4-8. 2018 甲子園大学公開講座	2019 年 2 月 28 日	甲子園大学公開講座において「ファッションと心理学～服の色で印象を変えよう～」の講座を実施。
4-9. 高校大学連携出張講義	2019 年 3 月 14 日	株式会社さんぽう主催の高校内ガイダンスにおいて、百合学院高等学校にて大学で実際に行われている授業の体験として「社会心理学」の模擬授業を行った。 （於 学校法人百合学院　百合学院高等学校）
4-10. 甲子園大学心理学部公開講座 in オープンキャンパス 2019 春	2019 年 3 月 25 日	甲子園大学オープンキャンパスにて公開講座「制服を科学する～ビジネス心理学を学ぼう」を行った。
4-11. 講演 :『全国学校服連合会　第 31 回定時全国大会』における講演	2019 年 7 月 24 日	全国学校服連合会第 31 回定時全国大会」における講演を行った。タイトル「学校制服にできること～子どもたちの未来を考える～」（於 有馬グランドホテル）
4-12. 一般社団法人ニッケ教育研究所設立及び顧問就任	2019 年 10 月～	日本毛織株式会社のバックアップのもと、2019 年 10 月一般社団法人ニッケ教育研究所設立。研究所顧問就任。学校制服を中心とした被服に関する研究を行うとともに、企業対象の講演・セミナー、コラム執筆などを行っている。
4-13. 甲子園大学公開講座	2020 年 2 月 25 日	甲子園大学公開講座において「ファッションと心理学～色を楽しむ : 服の色で印象を変えよう～」の講座を担当した(於 宝塚中央公民館)。
4-14. 甲子園大学心理学部公開講座 in オープンキャンパス 2020	2020 年 6 月 28 日	甲子園大学オープンキャンパスにて公開講座「ビジネス心理学ミニ講義」を行った。
4-15. 繊維ニュース取材及び「繊維ニュース」記事掲載	2020 年 7 月 28 日取材 (2020 年 9 月 24 日記事掲載)	ダイセン株式会社創業 70 周年記念企画として繊維ニュースからファッション・被服研究に関する取り組み等についての取材を受けた。取材内容は日刊紙繊維ニュース 2020 年 9 月 24 日に掲載された。

様式第４号（教員個人に関する書類）

4-16. 甲子園大学受験生応援プロジェクト「ワンポイント心理学部授業紹介」動画の公開	2020 年 9 月	甲子園大学企画「甲子園大学受験生応援プロジェクト」の取り組みで「祥子先生のワンポイント心理学部授業紹介」動画を作成。大学 HP にて公開。
4-17. 会報誌「未来 Watch2021 年 1 号 No.4」ニッケ教育研究所会報誌コラム執筆	2021 年 1 月	タイトル『外見における社会的評価と「らしさ」を考える』
4-18. ニッケ教育研究所 HP『知られざる、被服の役割と効果』におけるコラム執筆	2021 年 1 月	タイトル『被服でその人の性格までわかってしまう？』
4-19. 企業からの講師招聘におけるプロジェクトの企画・実施（授業：マーケティングと心理学）	2021 年 4 月～	甲子園大学心理学部において、主に繊維・アパレル業界と食品業界に関する企業人を講師として招聘するプロジェクトを企画・実施。年 5 回、さまざまな企業の専門家（現役・OB）による特別講義として、研究開発・プロモーション・経営・社会貢献など企業活動の実際を講義して頂いている。招聘講師：岡本株式会社取締役・マーケティング本部長（元ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社代表取締役社長、元日本毛織株式会社衣料繊維事業部戦略推進統括部長兼戦略企画部長）白井光比呂氏、日本毛織株式会社執行役員 楠本景央氏、不二製油株式会社開発企画研究室 前渕元宏氏、甲子園大学栄養学部フードデザイン学科特任教授（元・不二製油株式会社　代表取締役社長）木本実氏、元・株式会社丸紅法務部副部長 中村秀雄氏。2022 年度も新たな企業人を加え引き続き実施。
4-20. 会報誌「未来 Watch2021 年 3 号 No.6」ニッケ教育研究所会報誌コラム執筆	2021 年 8 月	タイトル『学校制服は本当に高いのか～研究報告～』
4-21. 繊維ニュース取材及び「繊維ニュース」記事掲載	2021 年 8 月 30 日取材 (2021 年 9 月 30 日記事掲載)	繊維製品消費科学会にて発表した研究内容について取材を受けた。「学校制服は本当に高いのか」というタイトルで日刊紙繊維ニュース 2021 年 9 月 30 日に掲載された。
4-22. 高校大学連携出張講義	2021 年 10 月 6 日	大阪市立咲くやこの花高等学校第 1 学年を対象に授業タイトル「売れる「おにぎり」をプロデュースしよう！」を実施。（於 大阪市立咲くやこの花高等学校）
4-23. 会報誌「未来	2022 年 1 月	タイトル『集団における被服の機能～着装規範について考

Watch2022 年 1 号 No.8」ニッケ教育研究所会報誌コラム執筆		える～』
4-24. 全国学校制服大型専門店会（スークの会）研修会での講演	2022 年 6 月 22 日	全国学校制服大型専門店会（スークの会）研修会にて全国の大型専門店経営者陣を対象に講演を行った。タイトル「学校制服の存在意義と価値」。内容は学校制服の価値をマーケットにおいてどのように高めていくのかなど。（於 TKP 大阪御堂筋カンファレンスセンター）
4-25.全国学校服連合会情報交換会での講演	2022 年 7 月 26 日	全国学校服連合会会員約 150 名を対象に講演を行った。タイトル「学校制服の存在意義と価値」。内容は学校制服の価値・効用とマーケティング戦略について。(於 （株）チクマ本社 服育ラボ)
５　その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年　月	概要
１　資格，免許		
1-1. ファッション能力ビジネス検定 2 級	2007 年 12 月 20 日	認定番号 07N000632
1-2. 日本心理学諸学会連合認定心理学検定 1 級	2008 年 10 月 1 日	No.080974
1-3. 日本心理学会認定心理士資格	2012 年 10 月 20 日	登録番号　第 39073 号
２　学校現場等での実務経験		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
3-1.調査研究		
3-1-1.中国上海における若者のファッション関心と消費行動に関する研究	2004 年 9 月	中国上海の若者と日本の若者の被服感心及び消費行動についての比較研究を行った。調査結果は「ファッション関心と消費行動にみるファッションへの意識差に関する一考察―日本と中国上海の比較―」としてまとめ、奈良産業大学梶田学長推薦論文として紀要 Vol.29, pp.1-10,March 2013 に掲載された。
3-1-2.ニッケグループ／一般社団法人ニッケ教育研究所からの受託研究	2018 年 9 月～	日本毛織株式会社、一般社団法人ニッケ教育研究所からの研究資金援助を受け、学校制服に関わる様々な事象についての研究を行っている。

様式第４号（教員個人に関する書類）

４　その他						
担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数(総ページ数)	概　要
社会心理学概論 人間関係論 集団心理学 消費行動の心理学 マーケティングと心理学 社会調査法１・２	（著書） 1 新しい教職課程講座教職教育編４　教育心理学　第11章　教師と児童・生徒のコミュニケーション	共	2019 年 3 月	ミネルヴァ書房	18 (222)	原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹(監修)「新しい教職課程講座」全23巻における橋本憲尚･神藤貴昭（編著)『教職教育編第４巻　教育心理学』「第11章　教師と児童・生徒のコミュニケーション」を執筆。担当章はコミュニケーションという社会心理学的視点から学校教育を捉える目的で著されており，学校における対人関係を中心に，現代の子どもたちをとりまく環境や子どもの多様性に触れながら教師と児童・生徒のコミュニケーションについて解説。P. 198～p. 215(18 項)
心理学基礎セミナー１・２・ 心理学専門セミナー１・２・３・４	(教育実践記録等) 2 栄養と心の目 甲子園大学ラジオ名講座集第１号第７講 被服と心理学¯装いを科学する	共	2019 年 2 月	甲子園大学	2 (33)	ＦＭ宝塚の甲子園大学ラジオ講座において講義した内容について執筆。被服の社会的役割や機能、それに関わる対人関係、自己との関係について解説。学校制服が子どもたちのアイデンティティ形成、経済的な問題や安全、学習環境、対人関係と深い関係を持つことについても言及している。P. 14～p. 15（2 項）
卒業研究	（学術論文等） 1 ファッション関心度と他者意識 (修士論文)	単	2003 年 1 月	神戸大学大学院総合人間科学研究科修士論文	82	ファッションにおける若者の行動傾向，意識傾向に着目し，ファッション関心に影響を及ぼす関連要素を調査。特に、ファッション関心度尺度の検討，ファッション関心度と被服行動の集団差，他者意識・他者意識行動の集団差，ファッション関心度と他者意識との関係を検討した。本論文は,学校という所属集団の特性,学校環境の違いや性差の影響についてまとめたものである。 A4 判，総頁数 82
	2 現代における被服関心の	単	2003 年 11 月	日本繊維製品消費	9	本研究では、既存の尺度が抱える問題点が解決され､9 因子から成る「フ

	概念と測定尺度の作成¯構成概念の明確化と被服関心の多角化への適応を目指して¯（査読付き）			科学・被服の社会心理学的研究特集号・Vol.45・No.11, 820-828		ァッション・被服関心度質問票」を作成した。現代における被服関心の概念を明確にし，被服の関心度を測定することのできる尺度となった。この尺度では，ファッション・被服が個性を追求する側面を持つと同時に,「友人」を中心とした他者との協調性をはかるためのものであること、メディアの影響を強く受けるものであることが確認された。 B5 判，pp.820-828.（9 頁）
	3 ファッション・被服と対人距離の関係¯心理的と物理的距離¯（査読付き）	単	2005 年 10 月	日本衣服学会誌・Vol.49・No.1・31-38	8	ファッション・被服の選択及び着用に関わる他者との同調と差異の心理(研究 1)，ファッション・被服によって生起する他者へのポジティブ感情(P 感情)及びネガティブ感情(N 感情)の対人距離への影響(研究 2)を明らかにした。ファッション・被服の重複に対する着用者の感情と実際の行動傾向についてまとめたものである。他者とのファッション・被服の重複においては，N 感情を抱きながらも実際の態度にはできるだけ表さないようにし微差を模索していることがわかった。 B5 判，pp.31-38（8 頁）
	4. 被服への関心及び行動に影響を与える要因（「博士論文」）	単	2006 年 3 月	神戸大学大学院総合人間科学研究科博士論文	123	児童期･青年期の子ども計 1062 名とその母親を調査対象者とし，被服意識･被服行動について横断的に吟味。対人関係やメディアの影響等についてまとめたものである。一連の研究によって，小・中学生のおしゃれの情報源はファッション雑誌や友人であること，その関係性を分析することによってメディア接触の低年齢化という実態がわかった。また母親と子供のペアデータを共分散構造分析することで，子どもの流行への関心は，母親のビジブルな消費行動に影響を受けること，また外見への関心は筆記用具など持ち物への意識から自己への意識へと移行するというメカニズムが明らかになった。 A4 判，総頁数 123
	5. きょうだい数・きょうだい構成・出生	単	2010 年 5 月	日本繊維製品消費科学・	11	被服を中心としたおしゃれへの関心が，きょうだい数･きょうだい構成･出生順位によってどのような影響を

	順位が被服を中心としたおしゃれへの関心に及ぼす影響¯小中学生を対象とした研究¯(査読付き)			Vol.51・No.5・441-451		受けるのか検討した。装いへの関心度、流行に対する行動、おしゃれをすることに対する意識について、きょうだいの有無、きょうだいの性別の組み合わせ、出生順位などの影響をまとめた。 A4判，pp.441-451.（11頁）
	6. ファッション関心と消費行動にみるファッションへの意識差に関する一考察¯日本と中国上海の比較¯	単	2013年3月	奈良産業大学紀要・vol.29,March 2013, 1-9	9	日本と中国の若者のファッション関心と消費行動について，中国上海在住の大学生267名と日本在住日本人大学生 350 名を調査対象とした研究。調査の結果、日中いずれも流行を積極的に採用しようとする傾向が顕著に現れた。しかしながら，他者との協調性を重視する因子，購入価格に関する因子については，中国では抽出されず，日本の若者のみに見られた傾向であった。また，日本の若者は，中国上海の若者よりもファッションへの消費、自己への投資が積極的であるが，中国では親など身近な人のために積極的に消費を行う傾向が見られた。 A4判，p.1-9.(9項)
	〔その他〕 1 研究発表 1-1.口頭発表 1-1-1. ファッション・被服と対人距離の関係	単	2004年10月	日本衣服学会第56回年次大会(於 大妻女子大学)		学術論文3に同じ。
	1-2.ポスター発表 1-2-1. ファッション関心度と他者意識―尺度構成及びファッション関心への影響要因―	単	2003年9月	日本心理学会第67回大会（於 東京大学）		学術論文2に同じ。
	1-2-2. ファッション・被服の選択における情報の受容と	単	2004年9月	日本行動分析学会第22回大会		若者のファッション・被服の選択に，メディア及び他者がどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的とした。分析の結果，ファ

	それに関わる対人行動			(於 帝京大学)		ッション・被服選択に関わる情報源はファッション雑誌であるが，購入のきっかけは他者にあり，実際の購入時には雑誌から得られる情報から逸脱しないことを前提として，友人などのファッションやアドバイスが強く影響していることが明らかになった。
	1-2-3. ファッション・被服関心における発達過程―児童期から青年期を中心として―	単	2005 年 9 月	日本心理学会 第 69 回大会 (於 慶應義塾大学)		児童期から青年期の子どもを対象として，ファッション・被服への関心、メディアの影響がどのように変化していくのか明らかにすることを目的とした。調査対象者は児童・生徒 1062 名。本研究によって，ファッション・被服への関心度は基本的に年齢に伴って上昇する傾向にあることがわかった。更に，関心の高まりは女子の方が男子よりも早く，ファッション・被服について友人と情報交換を行う程度は年齢に比して高まる傾向があることなどが確認された。
	1-2-4. 子どものファッション・被服関心における親の影響―母子関係を中心として―	単	2005 年 9 月	日本社会心理学会 第 46 回大会 (於 関西学院大学)		母子間の関係に注目した場合，自己表現ツールであるファッション・被服への関心が，母親の態度にどう影響されるのか明らかにし，その関係性の中で，親からの自立，親への反抗心など，児童期・青年前期に特徴的な態度を主とした発達過程との関係について考察した研究。本研究によって，子どものファッション・被服への関心は，その発達に比して母親から自己を分離し，母親とは違う自己の存在を強く意識すると同時に，独立した外部からの情報に対する関心を高めていくこと，母子関係を軸とした転換期を 14 歳前後に迎えることも確認された。
	1-2-5. 被服に対する意識及び行動ときょうだいの存在との関係	単	2006 年 9 月	日本社会心理学会 第 47 回大会(於 東北大学)		学術論文 5 に同じ。
	1-2-6. 被服に対する親の意識及び行動―子どもの性別	単	2006 年 11 月	日本心理学会 第 70 回大会(於 福		有する子どもの性別によって，被服に対する意識や行動がどのように異なるのか明らかにすることを目的とした。本研究によって，男の子のみ

	に注目した研究―			岡国際会議場）		がいる母親は，他の場合に比べ，自分の被服やブランド物への関心度が有意に高いこと，女の子のみがいる母親は，他の場合に比べ，子どもの被服へ注意を払う程度が有意に高いことなどが明らかになった。有する子どもの性別によって，母親のファッション・被服に対する行動傾向が影響を受けることが明らかになった。
	1-2-7.小・中学生の衣服購入及び選択に関わる要因―他者とメディアの影響について―	単	2007 年 9 月	日本社会心理学会第 48 回大会（於 早稲田大学）		小・中学生の衣服購入や選択において，雑誌・TV などのメディアや身近な他者がどのように影響し，またその影響は学年に伴いどのように変化するのか検討。本研究により，自分で選択する割合が学年に比して上昇,「親が選んだもの」という選択率が下降する傾向が明らかになった。選択率の高低が逆転し，自分主体になるのは，男子では中学 3 年生，女子では中学 1 年生であった。消費における実質的なターゲットを誰にすべきかが示唆された。
	1-2-8. .被服関心と自己・社会に対する価値観との関係	単	2009 年 10 月	日本社会心理学会第 50 回大会（日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会合同大会）（於 大阪大学）		被服関心の持つ具体的な次元に注目し，それらが社会的側面において，青年期の自己や他者，価値観や生き方など，内面と関わる次元とどのような関係を持つのか検討した研究。本研究では,生き方に関する尺度と,行動の積極性や他者との関係に関わるものとの間など多くの側面で正の相関が見られた。青年期においては,被服が自己肯定感を高めたり前向きな生き方を促進したりする可能性があると考えられる。
	1-2-9. 被服に対する意識及び行動における子どもと母親の関係―母子間における因果関係モデルの模索―	単	2010 年 3 月	日本発達心理学会第 21 回大会（於 神戸国際会議場）		探索的・思索的にモデリングを行うことによって，小中学生の子どもとその母親の被服意識に関わる因果関係の模索を行うことを目的とした研究。本研究では，母親の衣服に対する消費への関心から，子どもの流行への関心に対して，有意な正のパスを示した。このことから，母親の衣服購入というビジブルな購買行動を身近で経験することによって，子どもは被服に関わる流行に関心を持つ

						ようになり，その結果，被服への関心が高まるというメカニズムが明らかになった。
	1-2-10. 被服が他者とのコミュニケーションに与える影響	単	2010 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2010 年年次大（於実践女子大学）		どのような被服を選択するのかによって他者とのコミュニケーションが促進されたり抑制されたりするが，これまでの研究は情報の受け手がどのような影響を受けるのかが主であった。そこで本研究では，青年期の女子の他者とのコミュニケーションにおいて，被服がまとう者の行動や心理にどのような影響を与えるのかを明らかにしてくことを主な目的とした。被服によって，コミュニケーション行動の積極性，他者とのふれあいにおける積極性などに影響が現れることが示唆された。
	1-2-11. ファッション関心度と消費における日中比較第１報	単	2011 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2011 年年次大会（於 武庫川女子大学）		学術論文６に同じ。
	1-2-12. 被服とコミュニケーションと社会的スキルの関係	単	2011 年 9 月	日本社会心理学会第 51 回大会（於 名古屋大学）		青年期の女子にとっての被服が他者とのコミュニケーションに与える影響を捉えるにあたり，被服関心の高低と社会的スキルの高低がどのように影響しているのか検討。社会的スキルについては，自己抑制スキルのみ，気分関連に主効果がみられ，自己抑制スキルの高い人は，自己抑制スキルの低い人に比べ被服によって気分が左右されにくく自己抑制が働くことが示唆された。
	1-2-13. 装いに対する意識と自己への意識との関係 ~装いへの関心の高まりが自己にポジティブな影響を与える可能性についての一考	単	2012 年 9 月	日本心理学会 第 76 回大会（於 専修大学）		若者の装いに対する意識や行動のサポートが自己や自身の将来への肯定的イメージを促進し，他者とのコミュニケーションにポジティブな影響を与える可能性を検討。分析の結果，自分らしさを重視する人程，ファッションセンスを磨き、ファッションを積極的に楽しんだり，自分らしいファッションをしようとする意識が高くなる傾向に加え、装いによって

	察~					自己を表現したり，ファッションを積極的に楽しむ生活を送ることによって，自己受容が高まる可能性も示唆された。
	1-2-14. ファッション関心と消費行動における大学生の意識変化	単	2013 月 11 月	日本社会心理学会第 54 回大会(於 沖縄国際大学)		2004 年から 2013 年の約 10 年間で若者のファッション関心と消費行動の変化を分析。消費行動については，バーチャル財布を設定することで消費傾向の数値化を試みた。分析の結果、ブランド情報認知度は男子大学生において低下傾向がみられ，ブランド物への関心が薄れていた。ブランド物の消費については、偽物を持つくらいなら要らない，本物を買うほど執着もしていないという意識が見られた。男子大学生の消費傾向は，2004 年と比較すると 1 位と 2 位が逆転し,「ファッションアイテム」への消費は「友人との外食」への消費を下回る結果となった。
	1-2-15. 被服行動に対する心理的負担と他者意識との関係	単	2014 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会(於 同志社大学)		若者が被服行動に対しどのような心理的負担を感じているのか，他者意識との関係も含め検討した。機能性に気を配ることに心理的負担を感じながら被服行動を行う女子大学生は，適切性を考えることにも心理的負担を感じ，流行行動から遠ざかる傾向にあること，また他者の目を気にしすぎて，気楽に“楽しむ”という意識ではないことが示唆された。ファッションを楽しむにとどまらず，それぞれに心理的負担を感じながら被服行動を行っている場合があることが示唆された。
	1-2-16. ファッション関心度と集団主義傾向との関係性についての一考察―制服着用経験はファッションへの関心と行動傾向に影響するのか―	単	2016 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2016 年年次大会（於 東京家政大学)		本研究は，学校制服が子どものアイデンティティ形成や行動傾向にどのような影響を与えるのかについて明らかにするための初動研究であり，集団主義傾向とファッションへの関心に注目した研究。学校制服着用経験の有無によってファッション関心度の各次元と集団主義傾向にどのような関係が見られるか検討。小学生時の学校制服経験の有無で集団主義傾向に有意差がみられ，経験有の場合の方が，経験無の場合よりも集団主義傾向が強いことが明らかになっ

						た。
	1-2-17. 制服着用経験がファッション関心度と集団主義傾向の関係に与える影響についての一考察―男女による影響の違いについて―	単	2016 年 9 月	日本社会心理学会第 57 回大会（於　関西学院大学）		学校制服着用経験の有無によってファッション関心度の各次元と集団主義傾向にどのような関係がみられるか性差を中心に検討した。児童期に制服着用を経験していない場合，集団主義傾向が高まるにつれてファッションにおける同調性も高まる可能性が示唆された一方で，制服着用経験者には同様の傾向がみられなかった。男子では，児童期に制服着用経験をした場合，集団主義傾向が高まるにつれてファッションにおける積極性が低くなる傾向がみられたが，女子では同様の傾向は見られなかった。
	1-2-18. 子どもたちの仲間意識における学校制服の役割―学校制服のアレンジは仲間意識を強化するのか―	単独	2017 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2017 年年次大会（於　京都女子大学　）		学校制服着用の有無と学校制服に対する好感度の関係及び制服のアレンジや制服・私服の着用方法の同調が仲間意識にどうような影響を及ぼすのか明らかにすることを目的とした。制服に対する好感度に関しては，自身の経験した方を肯定的に捉える傾向がみられた。制服アレンジ率は中学生で上昇し，高校生で下降した。いずれの段階においても，制服アレンジによって仲間意識を強く感じていた者が一定数存在した。
	1-2-19. 学校制服が共感性に与える影響	単	2019 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2019 年年次大会（於　奈良女子大学　）		小学生時における制服着用経験有無が共感経験傾向にどのような影響を及ぼすのか明らかにすることを目的とした。共感性の高さは対人関係を円滑にすることにつながると考えられている。本研究では，共感経験尺度を使用し，小学生時の学校制服着用者と非着用者を比較した結果，女子 SISE 高群において，学校制服着用経験者の方が非着用者に比べて SISE の値が高くなる傾向が明らかになった。学校制服のポジティブな効用として確認された。
	1-2-20. 被服が対人認知評価に及ぼす影響	単	2020 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2020 年年次大会（武庫川女子大		ファッション４系統「カジュアル系」「キレイ目系」「ストリート系」「ギャル系」の写真を材料として社会的認知について検討した。分析の結果、男性の方が「ギャル系」ファッションを好意的に捉えていることが示唆

				学にて開催予定であったが、コロナ禍により要旨集発行をもって学会発表とみなされた。） 研究発表要旨，132		された。女性ファッション４系統では赤文字系と言われるファッション誌に象徴される「カジュアル系」の「個人的親しみやすさ」が「ギャル系」よりも有意に高くなった。また、男性からの社会的評価が最も高くなったのは「キレイ目系」ファッションだった。
	1-2-21. 学校制服導入の有無が家計に及ぼす影響について～費用と負担感に関する一考察～	単	2021 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2021 年年次大会 （於　武庫川女子大学オンライン開催　）		入学式被服費は，学校制服有の方が私服導入に比べ費用が高くなったが、通学用被服費は年間を通じて私服の場合の方が学校制服有よりも費用が高かった。入学式というハレの日のためのみに着用する被服費と数年に亘りほぼ毎日着用する学校制服費用とでは，本来別物の「サイフ」として捉えることが必要だが,「入学式時にかかる費用」という同じ「サイフ」として捉えられることにより，学校制服＝「高い」というイメージに結び付いている可能性が考えられる。この負担感を学校制服の価格の問題としてどのように解決していくかは企業にとって大きな課題である。
	1-2-22. 学校制服着用経験が共感性・攻撃性に及ぼす影響	単	2022 年 6 月	日本繊維製品消費科学会 2022 年年次大会 （於　武庫川女子大学オンライン開催　）		学校制服着用経験の有無が共感性における「個人的苦悩項目」に影響を与えることが確認され，「個人的苦悩」の高さは攻撃性における「短気」「敵意」「言語的攻撃」の高さと関連することが明らかになった。児童期に学校制服着用という同調性を経験することで，他者との関係における不安傾向が弱まる可能性が示唆され，更にその不安傾向を低減することが「短気」と「敵意」という他者への攻撃行動の抑制につながる可能性が示された。